



青少年作文コンクール入賞者

心に残った出来事や、私を変えた一言など、自由なテーマで作文を募集したところ、296人から応募があり、次の皆さんが入賞しました（敬称略）。

生涯学習課（☎62-1036）

最優秀賞 1人

「主権者として」

仲西玲空（雁が音中3年）

優秀賞 10人

「ついつい」

辻リオナ（朝日中2年）

「自分がするべきこと」

松山未空（朝日中2年）

「思いやりは国境を越えて」

三成市華（刈谷東中3年）

「Aー絵師」

受井綾音（雁が音中3年）

「『多様性』への正しい理解を」

濱島詩歩（雁が音中3年）

「平和への願いをのせて」

伊藤愛乃（朝日中3年）

「同級生の一言」

迫みずき（朝日中3年）

「私を変えた環境」

大前拓海（株ジェイテクト高等学園）

「リーダーを通じて得た経験」

畑中煌生（株ジェイテクト高等学園）

「感謝」

深谷仁之将（株ジェイテクト高等学園）

最優秀賞

「主権者として」

仲西玲空
なかにし れいこう

「五二・〇五パーセント」

突然ですが、この数字がなんの数字に分かりますか。これは令和四年に行われた第二十六回参議院議員選挙の国民の投票率です。そう、十人に五人か六人、つまり国民の約半分しか選挙に参加していないのが今の日本の現状です。この数字を聞いて何を感じますか。私は、全ての国民に関わる日本の政治を決める選挙に国民の約半分しか参加していないという一人一人の責任感の低さに大きな情けなさを感じました。

では、どうすれば日本の投票率は上がるのでしょうか。選挙に行くことが義務づけられていたり、投票をしないと罰金が科せられたりする制度によって投票率が毎回九割を超えている国もあるそうです。確かに選挙を義務化したら、間違いなく日本の投票率も今より格段に上がると思います。しかし、私はそれではただの表面上の数字に過ぎなくなってしまうのではないかと思います。政治や立候補者に対して十分に知識がないまま、なんとなく決めて投票する人が増えてしまっている結果が出なくなってしまう可能性があると思うからです。しかし、だからといって日本もこのままの投票率の低さでは適切な結果は得られないと思います。投票率が低いと、日本の政治を動かす重要な政治家を一部の人達だけで決めることになり、日本のことを国民全員で考えて決めるという民主主義の仕組みが成り立たなくなってしまうからです。特に最近の日

本では若者の投票率の低さが問題視されています。その理由は政治を他人事と捉えている人が多いからだと思います。先日、テレビで若者に選挙に行かない理由についてインタビューしているのを見ました。そこでは主に、自分の一票の影響力を感じられない、めんどくさいなど主権者としての自覚の低さが多くあるように感じました。

選挙権は少子高齢化や地球温暖化など様々な問題を抱えている日本にとって、未来の日本を生きていく若い世代が早く選挙権を持つことで、現在そして未来の日本のあり方を決める政治に関与してもらいたいという思いから十八歳まで引き下げられたそうです。それなのに若者の投票率が低くしては全く意味がありません。日本は政治について国民全員で考え、決める民主主義国家です。その一つの象徴に選挙があると思います。民主主義国家の国民の一人として、その代表である政治家を選ぶことは決して他人事ではありません。私はまだ選挙権を持っていませんが、十八歳になったら必ず選挙に参加しようと思います。選挙権を持つ大人の皆さん、目の前にある一つの選挙権は日本の未来を変える大きな力を持っています。その力を簡単に捨てないでください。主権者としての自覚、責任、プライドを持って選挙に行ってください。一人一人が率先して政治に参加することが、日本の未来を担う責任であるのではないのでしょうか。